

巻 頭 言

奈良女子大学理学部
山下 靖

私は 2012 年 7 月から 4 年間、数学会の情報システム運用委員会委員長を務めました。実は昨年 6 月に任期が終了しホッとしているところです。この場をお借りしてこの委員会の活動について簡単に紹介します。

情報システム運用委員会は、数学会が必要とする情報システムの運用と、情報化に関連した普及広報活動を行うことになっています。情報システムの運用で代表的なもの、ホームページ (<http://mathsoc.jp>) の管理です。各種のニュースやお知らせを随時掲載するとともに、その内容を twitter などを通じて発信しています。さらに、この数学通信の内容を含め、数学会に関する様々な情報を提供しています。委員長の役割は、担当理事の方や事務局などからの依頼をもとに、実際に自分でホームページを更新したり、別の委員や事務局の方に作業をお願いしたりすることです。ホームページの作成は特別なソフトウェアなどは使用しておらず、html ファイルを直接編集するというやや原始的なやり方を続けてきています。ホームページの見栄えを考えると別の方法もあるかもしれませんが、委員長の交代やサーバの移行などの際には、引き継ぎがとても単純になりますし、データの移行もファイルを転送するだけなので、メリットを感じました。

このような単純なホームページの運用の中で、私として少しだけ工夫したのは上にも書いた twitter や facebook などの利用です。twitter は 2010 年 3 月ごろ開始し、日本語アカウント (mathsocjp) 英語アカウント (mathsocjpen) どちらも購読者は三千を超えています。皆さんにホームページに見に来てもらうのを単に待つのではなく、ホームページに来てもらうきっかけをこちらから作っていきたいという思いで始めたもので、ある程度受け入れられたかなと思っています。手動で書き換えられる html ファイルを定期的にチェックして、更新があれば自動的につぶやくようなプログラムを私が書きました。メンテナンスを考えると、今後私が委員会を離れるときには何か別の方法を提案しないといけないかなと思っています。難しいことはほとんど何もしなかった私の仕事の中で、数少ない懸案事項です。

実際の情報システムの運用で悩ましいのは、ホームページの更新よりも、サーバ自体の運用管理についてです。サーバの運用そのものが難しいというより、管理を手伝ってくださる委員を数学会の会員から見つけることに気を使いました。委員会は数学

会全体に対してサービスをするので、委員は広く集めるべきなのですが、私の力不足もあり結果的に委員の分野がやや偏ってしまったように感じています。ただし、この偏りについては、昨年7月に私の後任を引き受けてくださった行木孝夫先生（北海道大学）のご尽力でこれからは是正されていくでしょう。また新委員長はサーバの運用についても、よりシステムティックな運用形態を考えてくださっているようで、今後の発展に期待しています。

さらに、サーバの運用についてはオンラインシステム管理委員会と密接に協力しながら仕事を進めています。（オンラインシステム管理委員会は、学会の講演申し込みなどのシステム（app.mathsoc.jp）を運用しています。）協力というと聞こえが良いのですが、サーバの移行をする際の初期設定をはじめとして、実際にはかなりの作業をお世話になっていて、これまで本当にいろいろと助けられました。どうもありがとうございます。

また、年会・秋季総合分科会の際には、授賞式や総合講演・企画特別講演のビデオ撮影を行い、ホームページでの公開も委員会で行なっています。委員の皆さんにはこれまでたくさんの撮影を担当していただき、感謝しています。どれも素晴らしい講演で数学会の貴重な財産です。ホームページでの公開については、こちらの宣伝不足でアクセスが伸び悩んだかなと思っており、これは私の反省点です。

委員会の活動のもうひとつの側面である「情報化に関連した普及広報活動」については、委員会としてはあまり活動できていませんが、年会・秋季総合分科会の際に併せて開催されているワークショップ「数学ソフトウェアとフリードキュメント」の後援を継続してきました。私自身も機会があれば参加し、刺激を受けています。

冒頭に書いたように委員長を務めたのは2012年からですが、私が数学会のホームページに関係するようになったのは2000年の10月からです。この仕事から離れていた期間もあるのですが、長い間に本当にたくさんの方にお世話になりました。巻頭言なので個人名を挙げるのは避けますが、これまでの歴代の担当理事の先生方に感謝申し上げます。さらに委員の皆さんとの出会いも私にとって貴重な経験でした。委員会の仕事を通して私の視野も少し広がったような気がしています。また、事務局の方がとてもしっかりと働いてくださっていることも知ることができ、数学会をより大切に思うようになりました。

数学会にとって情報システムは今後も重要であり続けることでしょう。会員の皆様からのご協力を今後ともどうかよろしくお願いいたします。